

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	本市のノリ養殖業においては、生産枚数の減少に歯止めをかけることが重要と考えている。 対策の一つとして、栄養塩低下を改善するため、ノリの生育に必要な窒素やリンを残した状態で下水処理を行い、放流してもらいたい。また、ノリ乾燥の委託加工の充実によって陸上作業を軽減できれば、生産の継続や規模拡大につながる。	〔市長〕 下水処理の際、窒素やリンを残しすぎても富栄養化の原因となる。豊かな漁場をつくっていくためには、様々なデータを取りながら、最適なバランスをとっていくことが重要である。 〔農水局長〕 現在、ノリの養殖時期には、窒素排出量を増加させる下水処理施設の運転管理を既の実施している。排水基準を考慮した効果的な運転管理が実施できるよう、今後も現場のご意見を踏まえつつ、最適な形で実施していきたい。 〔水産振興センター〕 ノリの委託加工について情報収集を行うとともに、漁業者・漁協の意向を丁寧に伺いながら、本市のノリ養殖業の将来に適した経営形態や施設整備について検討していきたい。	農水局	水産振興センター
2-1	ノリ養殖を継承していけるよう、子どもにも伝わりやすいメディアやSNSを活用した情報発信に力を入れてほしい。	〔市長〕 漁業者の皆さんの地道な取組のおかげで、美味しい熊本のノリが生産されている。大変な思いをしながらも、良いものができたときの生産者としての喜びを発信することは、とても重要であり、若い世代が興味や希望を持つきっかけになる。 マスメディアの積極的な活用はもちろん、ノリ養殖の現場を1年を通して取材し、動画で発信するのも良いのではないかな。 〔農水局長〕 漁業者の皆さんのご協力が必要な取組になるので、動画の作成について若手漁業者の皆様にもご相談させていただきたい。	農水局	水産振興センター 農業政策課
2-2	地元住民でもノリがどのように生産されているか知らないことが多いので、ノリのPR活動に力を入れてほしい。 子どもが「継ぎたい」「残したい」と思えるようなノリ養殖業にしていけることが必要である。	〔市長〕 若手の皆さんが、ノリ養殖業を継承していきたいという気持ちで情報発信していくことはとても大事なことと思う。生産したノリを全国で味わってもらえるということは、とても素晴らしいことなので、その楽しさや喜びを伝えていってほしい。	農水局	水産振興センター

No.	ご意見	回答	局	担当課
3-1	熊本全体としてのノリのブランドの統一化に取り組みたい。	〔市長〕 熊本のノリは品質が高いが、有明海のノリというイメージが強い。熊本としてブランドを持つことは、良い観点かもしれない。統一ブランドを通して熊本に良いものがたくさんあることを知ってもらうことは、ブランディングとして大切なことである。 熊本のノリのブランド価値をいかに高めていけるか、皆さんと一緒に考えていきたい。	農水局	水産振興センター
3-2	漁協によってブランドの規格（ノリの種や生産方法）が異なることから、現時点でそれらを整理して統一ブランドを持つことはハードルが高い。			
3-3	ノリをどのようにブランド化していくか、輸出も含めて考えていかなければならないので、関係機関との連携を一層強化していきたい。	〔市長〕 市も一緒になって様々なチャンネルを使いながら、県漁連とも連携して皆さんの取組を後押ししていきたい。	農水局	水産振興センター 農業政策課 （農水ブランド戦略室）
4-1	人手不足が深刻である。 軽労働化のため、ノリ養殖に必要な支柱や浮き流し施設を、GPSと台船を活用し自動設置できるようなプロジェクトを検討してもらいたい。	〔市長〕 人手不足への対策としては、効率化が考えられ、農業分野でも取組が進んでいる。効率化によって負担軽減できれば、新規参入もしやすくなる。台船の導入なども含めて、ノリ養殖の効率化を研究していくべきだと考えている。 〔農水局長〕 農業分野においては、スマート農業のテーマの一つとして省力化が進められている。水産分野においても水産庁の取組を研究し、現場のご意見もいただきながら検討したい。	農水局	水産振興センター
4-2	漁業権の境界情報は熊本県が管理しているので、境界のGPS座標情報を公表してもらえるとAI技術の進展につながる。			

No.	ご意見	回答	局	担当課
5-1	漁港の浚渫土砂の受入地が近隣にないことで処分コスト（単価）が上がった結果、浚渫量が減少した。宇土市では新たな土砂受入地が数年後に供用開始されるようだ。熊本市でも土砂受入地の確保をお願いしたい。	〔市長〕 災害で皆さんが大変な思いをしているのは承知しており、土砂堆積が以前よりも早くなり漁船の出入港に支障を来していることも把握している。国の事業も活用しながら管理3漁港の浚渫を実施しているが、予算確保や浚渫土砂受入地の確保に苦慮している。今年は可能な範囲で予算拡充したが、安定して浚渫を続けていけるよう管理3漁港の機能診断と次期機能保全計画策定を順次実施予定である。今後も、適切な浚渫ができるよう、計画内容や土砂のたまりにくい維持の方法について関係漁協と協議しながら検討したい。	農水局	水産振興センター
5-2	浚渫土砂受入地について県と関係市町が連携して検討しており、宇土市、長洲町で受入れの準備が進められている。熊本市でも受入れを検討してもらいたい。	〔水産振興センター 追記〕 浚渫土砂受入地の確保は有明海沿岸地域の漁港管理者の共通課題であることから、熊本県や玉名市、宇土市と連携しR4年度から、まずは宇土市で浚渫土砂受入地の整備に着手したところ。今後、玉名市区域と熊本市区域でも受入れ候補地を選定し、順次整備していくこととしている。事業推進のため熊本県漁連や関係漁協の理解と協力を求めている。	農水局	水産振興センター
6-1	熊本地震の影響で漁港が地盤沈下しており、土砂の流入も多くなっている。	〔水産振興センター所長〕 漁港の地盤沈下について、詳細の把握は困難であるものの、熊本地震以降に発生を確認している。今後策定する次期機能保全計画の中で皆さんのご意見を参考にしながら内容を検討していきたい。	農水局	水産振興センター
6-2	今後のノリ生産には漁港機能強化等も重要なポイントである。	〔水産振興センター 追記〕 管理漁港の適正管理のための施設長寿命化・航路泊地浚渫を着実に推進するため、R5年度から機能診断及び次期機能保全計画策定に着手したところ。なお、次期機能保全計画策定については関係漁協の意見も参考にしながら検討していきたい。また、漁協が整備する共同利用施設等への国補助の活用について案内していきたい。	農水局	水産振興センター

No.	ご意見	回答	局	担当課
7	労働力が減少していくので、将来的にノリの乾燥作業は家内工業から工場制（分業化）へ変遷していくと考える。 ノリ養殖の工程上、これまで以上に生産性を向上させることは難しく、漁協単独では数量が揃わない状況も出てきている。	〔市長〕 ノリ養殖において個人経営では、個人が負うリスクが非常に大きい。産地として今後のあるべき姿を、関係者で考えていかなければならない。 大同団結して受け皿が大きくなれば、雇用の維持、創出に繋がるのではと考える。	農水局	水産振興センター
8	現在、漁業者は、半導体関連企業の進出による排水問題が風評被害に繋がらないか心配している。行政側も、調査等含めて確実に対応して漁業の振興に取り組んでもらいたい。	〔市長〕 有明海の自然環境のバランスが保たれているから、おいしいノリができる。恵まれた自然環境を活かし、バランスを崩さないことが非常に大事。水質にも気を付けていかなければならない。 皆さんが将来に向けて夢が見られるよう、次期総合計画などの中でも、水産分野をしっかりと位置付けていかなければならないと考えている。	農水局	水産振興センター 農業政策課
9	ノリの共同乾燥施設の整備について、国、県が補助している。共同乾燥施設の導入を推進するために、市にも相応の補助率を期待する。	〔水産振興センター 追記〕 補助率の水準については、導入が進んでいる他市町や政令指定都市の状況等を参考にしつつ検討していきたい。	農水局	水産振興センター